

NEWSLETTER Vol.10



- 市内の小中学校施設は、建設から30年以上経たものが全体のほぼ9割を占め、その中でも古い校舎は建て替えの時期が近付いている状況にあります。
- 本市では、未来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく自立した人間として育つよう、これからの学校施設のあり方について「各務原市学校建替基本方針策定委員会」を設立し、調査・審議を進めています。
- ここでは、委員会の会議内容を紹介していきます。

1. 第10回各務原市学校建替基本方針策定委員会を開催しました。

令和6年2月16日（金）午後1時30分から第10回各務原市学校建替基本方針策定委員会（以下、委員会といいます。）を各務原市産業文化センターで開催しました。

2. 地域開放・複合化、エコスクール・環境配慮、景観・デザインなどについて話し合いました。

■地域開放・複合化について

学校を地域コミュニティの拠点として捉え、地域の人たちと連携・協働する「共創空間」を整備することが求められています。地域開放や複合化について、実情も踏まえながらその仕組みづくりや管理体制についての課題を審議しました。

■エコスクール・環境配慮、景観・デザインについて

2050年脱炭素社会の実現に向けて、学校施設にも積極的な取り組みが求められています。環境に配慮した学校施設として省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入等について意見を交わしました。また、本市の景観計画を踏まえながら、学びの場にふさわしい景観・デザインについて意見を交わしました。



▲地域の人たちと連携協働する共創空間のイメージ

■学校建替事業(中長期の視点)について

本市における学校教育系施設の個別施設計画を踏まえながら、今後の小中学校の建替等の事業について、配慮すべき事項や検討すべき事項について意見を交わしました。

3. 第10回委員会で出された主な意見を紹介します。

■地域開放・複合化について

- ・基本的な考え方を地域開放、複合化、地域連携の3つの枠組みにしてもよい。コミュニティ・スクールの内容も含むことができると思う。
- ・小学校と中学校では地域とのかかわり方の考え方が異なる。
- ・小学校を地域コミュニティの単位として考えた方がよいと思う。
- ・今あるものをベースにしながら、地域が何を求めているのかというところから考えていく必要もある。
- ・セキュリティ面は重要な課題だが、地域の人々が会議や作業時の休憩に使える場所があるとよい。
- ・地域開放は、先生の管理・運営の負担を減らすための体制作りが重要である。
- ・運営管理体制もあわせて考えることが重要である。

■エコスクール・環境配慮、景観・デザインについて

- ・基本的な考え方等については概ね賛成できる。
- ・安全安心の確保や計画段階での補助金の活用検討、維持管理、学校の負担等を一体的に考えることが重要である。
- ・地域の人々が大切にしているものを残しながら計画を進めることも大切になってくると思う。

■学校建替事業(中長期の視点)について

- ・市内の小中学校25校をすべて建て替えていくと考えると、単純計算するだけでも相当な時間と費用を要する。具体的な検討が今後必要になってくると思う。

※委員会の日程は、市のホームページに掲載します。2か月に1回の開催予定です。

【お問合せ先】各務原市役所 教育委員会事務局学校施設課

TEL：058-383-1814（直通）FAX：058-389-0218

E-mail：gakkoshisetsu@city.kakamigahara.gifu.jp